

環境安全ニュース

大阪大学環境安全研究管理センター

環境安全研究管理センターの発足

大阪大学保全科学研究センターは、平成16年4月より、環境安全研究管理センターに名称を変更して新たなスタートを切った。従来の研究センターとしての業務のほかに、薬品管理支援システム業務と化学物質に係る対外的窓口業務が新たにセンターの業務に加えられた。

大阪大学保全科学研究センターは、「環境保全及び安全管理に関する研究を通じ、環境保全及び安全管理対策の立案、実施及び教育を行う」ことを目的に、平成6年6月24日に10年の時限で設立された。本年3月末に時限をむかえ、この4月より、独立法人化とともに「環境安全研究管理センター」に名称を変更して新たなスタートを切った。

環境安全研究管理センター¹⁾は以下の化学物質に係る研究及び業務を行う。

(1) 有害物質等の精密分析、評価、無害化処理、再利用及び安全管理に関する研究

(2) 本学の教育、研究に伴って生じる有害物質を含む排出物及び廃棄物（放射性物質及びこれによって汚染されたものを除く。以下同じ。）の適正な管理、処理及び処分業務の統括

(3) 本学の薬品管理支援システム（OCCS）に関する業務

(4) 環境保全及び安全管理に係る対外的窓口業務

(5) 危険物及び有害物の取扱い方法に関する指導及び助言

(6) 廃棄物の無害化処理及び再利用方法に関する指導及び助言

(7) 教育、研究及び周辺環境保全のための環境監視に関する指導及び助言

環境安全研究管理センターの業務として新たに加えられたのは、前述の(3)と(4)で、具体的にはPRTRの集計やOCCS（大阪大学薬品管理支援システム）の維持管理である。



4月1日より、センター名は変更されたが、本「環境安全ニュース」は、名称を変更せず継続します。今後もよろしくお願いいたします。

¹⁾ 環境安全研究管理センターHP: <http://www.epc.osaka-u.ac.jp>



大阪大学薬品管理支援システム (OCCS) は、2月と3月の一般ユーザーに対する説明会、種々のマスターデータの登録の後、平成16年4月に運用が開始された。その後、4月21日にスーパーバイザー向けの説明会が実施された。

5月までの間、サーバは薬品データの更新・新規投入、修理、マスターデータの修正などの理由により、数回停止した。4月中旬に予期しないトラブルのため、各サーバが薬品検索ができない状態になり、それぞれwebサーバを再起動した。この原因については、すでに解決済みである。

OCCSには5月7日現在で、総数39,714本の薬品がすでに登録されている。多い日で1日約3,000本(約2,000品目)が登録された。サーバ毎では、約1ヶ月早く運用を開始したs1への登録件数が多くなっている。

	登録本数	登録品目
s1	23,077	12,403
s2	8,770	4,716
t	7,867	4,824
総計	39,714	21,943

s1: 工学・産研など、s2: 医・歯・薬学など、t: 豊中地区。

当センター、東北緑化環境保全(株)、関東化学(株)への問い合わせも、3月末から4月初旬にかけて30件/日にのぼる時もあったが、現時点では問い合わせも減少してきている。

当初心配された、アクセスの集中による問題はこれまで発生していない。最もアクセスが集

中していたs1サーバで、4月初旬から中旬で15~20件の同時アクセスがあった。

OCCSは、各種法規に対応可能である。例えば、3つのサーバを集計するだけで、毒劇物の保管量や使用量を集計することができる。OCCSの最大限の利用を優先したため、重量管理する物質を毒劇物、PRTR対象物質(各キャンパスで届出の可能性のあるもの)に限定した。このため消防法における危険物の指定数量の算出では概算値となる。またPRTRへの対応では、OCCSを用いて取扱量の集計は可能であるが、環境への排出量、学外への移動などでは、やはり部局への照会が必要になる。本号が皆様の手元に届く頃には、平成15年度のPRTRの集計作業が行われているはずである。

OCCSに関する種々の情報は、サポートサイトに頻繁にアップデートされている¹⁾。サポートサイトには、OCCSの停止情報、運用ルール、よくある質問、スーパーバイザー一覧などが掲載されている。停止情報に関しては、サポートサイト以外に、スーパーバイザーにもメールで通知される。

現在3台のサーバには、関東化学、和光純薬工業、ナカライテスク、東京化成工業、シグマアルドリッチジャパン、キシダ化学、フナコシ、第一工業薬品、コスモバイオの9社計575,257件の薬品データがそれぞれインストールされている。

まだ、登録を行っていない研究室は、マニュアルやサポートサイトの情報をよく読んで利用されるようお願いします。

スーパーバイザーの先生方にはいろいろご尽力いただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。今後も、OCCSの運用に関して、格段のご理解とご支援をお願いいたします。

¹⁾ OCCSサポートサイト: <http://www.epc.osaka-u.ac.jp/OCCS>

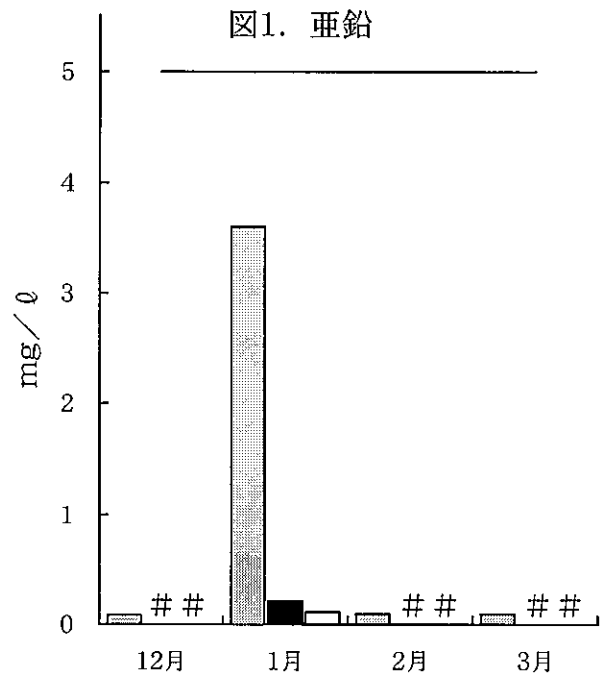
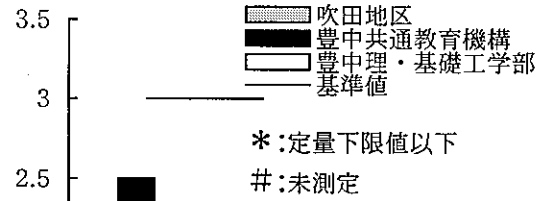
最近の排水水質分析結果について

今回は平成15年12月から16年3月の排水検査結果より、主な項目について示した(図1~5)。年度別の検査結果は、保全科学研究センター誌「保全科学」にまとめて掲載される。

吹田地区では、排水は1つにまとめられ最終放流口より公共下水道に排出される。1月に下水道基準値近い亜鉛が検出された(図1)。PRTR法に対応するため測定しているクロロホルム(下水道基準値なし)についても、1月に0.06 mg/l、3月に0.05 mg/lで検出された(図2)。また、2月には定量下限値(0.0005 mg/l)程度ではあるが、0.0008 mg/lの総水銀が検出された(図3)。すでに文書で注意を喚起したが、3月には下水道基準値(0.1 mg/l)を超える鉛(0.23 mg/l)が検出された(図4)。

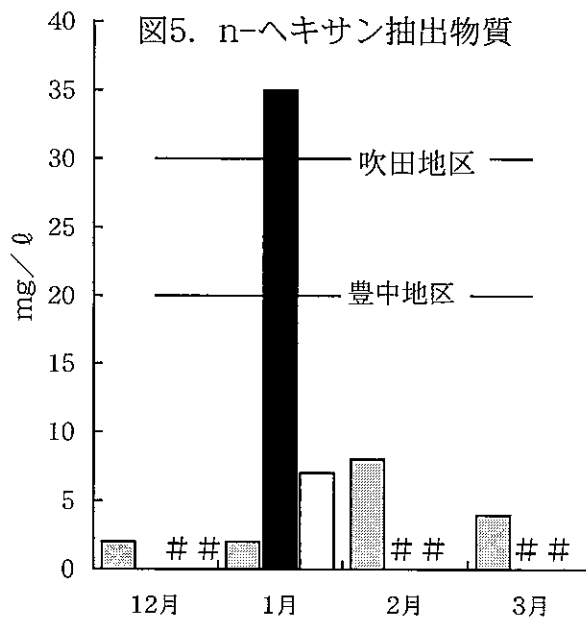
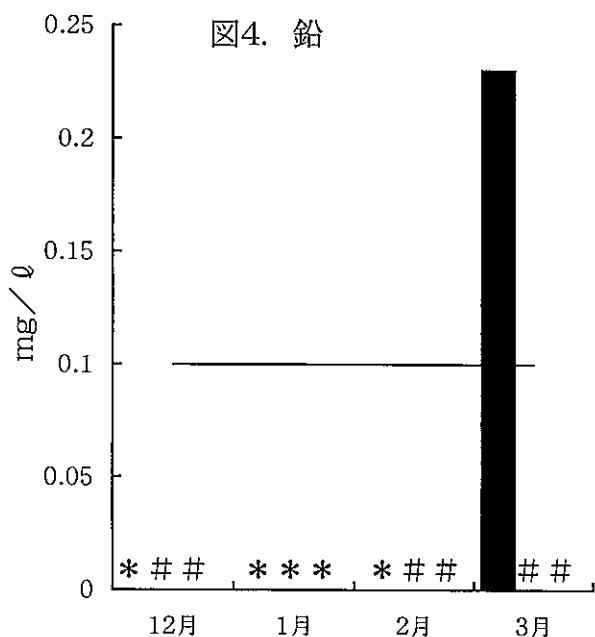
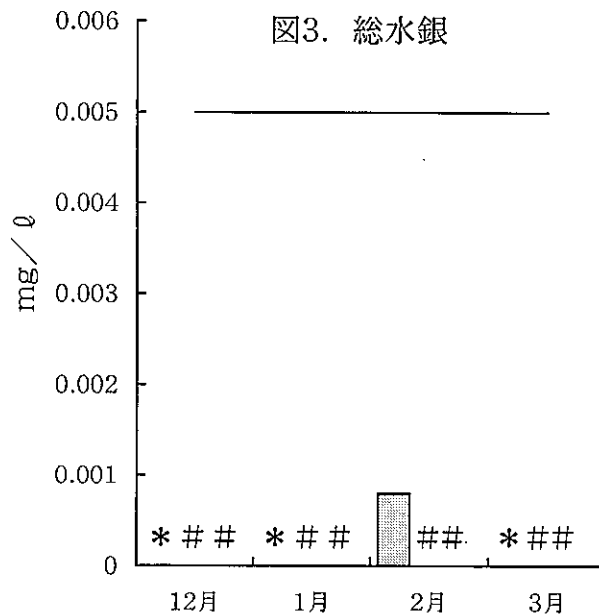
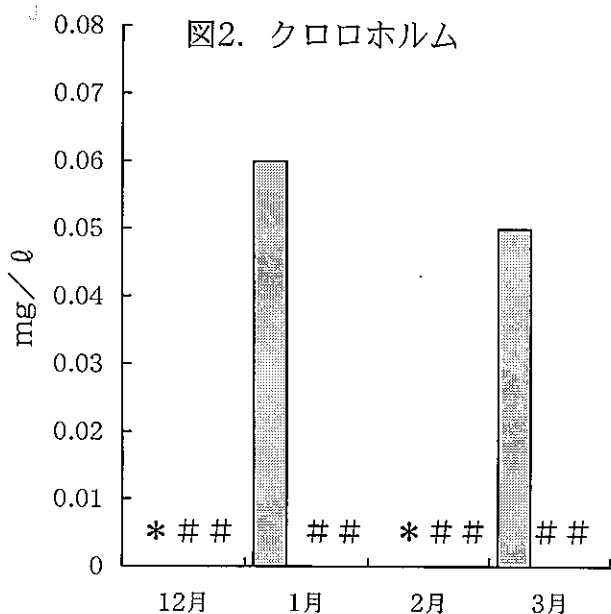
豊中地区では、排水は共通教育機構側と理学部・基礎工学部側の2つの系統に分かれて公共下水道に排出される。1月のみの結果ではあるが、下水道基準値を超えるn-ヘキサン抽出物質が検出され、グリーストラップの清掃を徹底するように豊中市より指摘を受けた(図5)。それ以外の項目は、概ね良好であった。

凡例



4月の独立法人化により、大学には種々の法律が適用されることになる。これにより、大学はこれまで以上に、薬品の管理、安全な取扱い、適正な処理と廃棄などに努めていく必要がある。

また、新学期を迎え、各研究室には新人が配属されたことと思います。各研究室の職員の方々には、今一度、取り扱っている有害化学物質に対する安全性および廃棄などの教育・指導の徹底をお願いします。



「環境月間」講演会のお知らせ

日時 2004年6月18日(金) 15:00~16:00

場所 コンベンションセンター 2階 会議室

講師および講演題目

「水と生きる」

サントリー(株)水科学研究所 所長 平島 隆行 氏

連絡先 大阪大学環境安全研究管理センター

Tel: 06-6879-8974, E-mail: hozen@epc.osaka-u.ac.jp